

感染症ニュース

No.234 2024/10/25

文責：竹鼻 純子

<流行中の感染症>

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)

日本での現在の流行株は JN.1 から変異した KP.3 が主流だが、アメリカでは、さらに変異した KP.3.1.1 や XEC が主流となっており、これらは日本でも検出されてきている。これらの株は感染力が強く、過去に感染歴があったり、複数回のワクチン接種で免疫があったりする人でも感染し発症する。若年層の症状は軽いですが、やはり高齢者は重症化しやすい。一方、JN.1 で作られた今秋のワクチンは、流行中のこれらの株にも効果があると言われている。今後も高齢者の重症化予防のためには、新しい流行株に対応したワクチン接種や、高齢者施設などでの徹底した感染予防策の継続が必要で、普段の生活でも基本的な予防策を継続し、手洗いに加え、特に3密となるような場面ではマスクを着け、よく換気することが大切である。

手足口病、ヘルパンギーナ

どちらも夏に多い感染症で、病原体となるウイルスは何種類もある。熱が出たり、口の中の痛みのために飲食ができなくなったりして、脱水症になりやすい。ときに、髄膜炎や脳炎を合併することもある。くしゃみや唾液から感染するだけでなく、患者の便中にも1か月程ウイルスが存在するため、徹底した手洗いが必要である。

溶連菌感染症

発熱、のどの痛み、発疹が主症状で、小児のみならず成人の感染も多く、昨年春から高い水準で流行が続いている。再感染や再発例も多い。経口抗生剤が有効だが、症状が治まっても10日前後服用を続けないと、腎炎などの合併症を併発する。今年は、急速に全身に感染が広がって重症化する劇症型の発生が多く報告されている。

感染性胃腸炎

冬から春にかけてはウイルス性胃腸炎が流行しやすいが、その代表であるノロウイルスにはアルコール消毒は無効なので、石鹸による手洗いを徹底することも重要。

マイコプラズマ感染症

流行は4年毎で今年は大流行中。のどの痛み、発熱、咳などで発症し、2週間以上、咳が続く。潜伏期間が2~3週間と長いいため流行も長引く。小児や若年者が発症しやすく、肺炎で入院することもある。園内、学校内、職場内、家族内感染が多い。